

抗 p53 p-Ser315 (ヒト) 抗体、マウスモノクローナル(#18)

商品コード	71-117
容量	100 µg
保存	-20°C
濃度	1 mg/ml
バッファー	PBS- with 50% glycerol
純度	ハイブリドーマ培養上清から proteinA で精製した
抗原	phospho-Ser315 を含む合成ペプチド
アイソタイプ	マウス IgG2b κ
反応性	ウシ、ヒトと反応する。他の動物種では試験されていない
特記事項	N/A
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (~1 µg/ml, 図 1) 2. ELISA 3. 免疫組織化学染色 (パラフィン包埋)
背景	p53 タンパク質は癌抑制遺伝子 <i>p53</i> の産物である。<i>p53</i> の変異はヒト癌の半数以上で検出される最も重要な癌関連遺伝子である。p53 は 53 kD の位置に電気泳動で検出され、393 のアミノ酸からなる。p53 は細胞にストレスのない状態では量も少なく不活性な状態にあるが、種々のストレス特に DNA 損傷等により活性化され、細胞周期の停止、DNA 損傷の修復、アポトーシスの誘導などに関与する。 p53 の Ser315 部位のリン酸化は DNA 損傷や nocodazole に依る microtubule の破壊等によって細胞にストレスが与えられる時に、aurora kinase や cycline-dependent kinase によってなされると報告されているが (文献 1、2)、p53 の機能に対する影響は複雑で大部分は未解明である (文献 3)。
Data Link	UniProtKB P04637 (P53_HUMAN)
文献	1. Katayama H <i>et al</i> "Phosphorylation by aurora kinase A induces Mdm2-mediated destabilization and inhibition of p53." <i>Nature Genet</i> 36:55-62 (2004) PMID: 14702041 2. Blaydes JP <i>et al</i> "Stoichiometric phosphorylation of human p53 at Ser315 stimulates p53-dependent transcription." <i>J Biol Chem</i> 276:4699-4708 (2001) PMID: 11078726 3. Bode AM & Dong Z "Post-translational modification of p53 in tumorigenesis." <i>Nature Rev Cancer</i> 4: 793-805 (2004) PMID: 15510160
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	

画像: 71-117 抗 p53phospho-S315 抗体、マウスモノクローナル (#18)

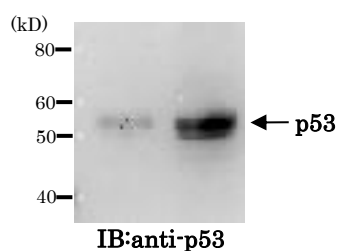
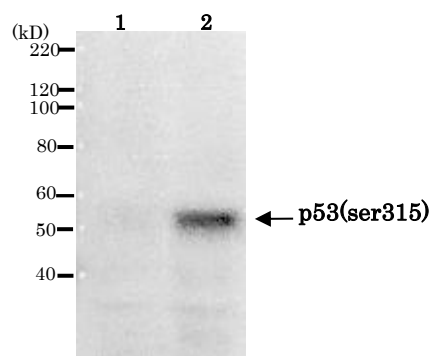


図1 ウェスタンブロッティングによる Ser315 がリン酸化された p53 タンパク質の同定。

上図 : MCF7細胞の無処理細胞 (レーン1) とnocodazole 100 ng/mlで48時間処理した細胞 (レーン2) の粗抽出液を用いて比較。抗p53-p-Ser315モノクロ抗体 (本製品) を用いてSer315がリン酸化されたp53のみが検出された。

下図 : 抗p53モノクローナル抗体(DO-1)を用いてp53タンパク質全量を検出している。

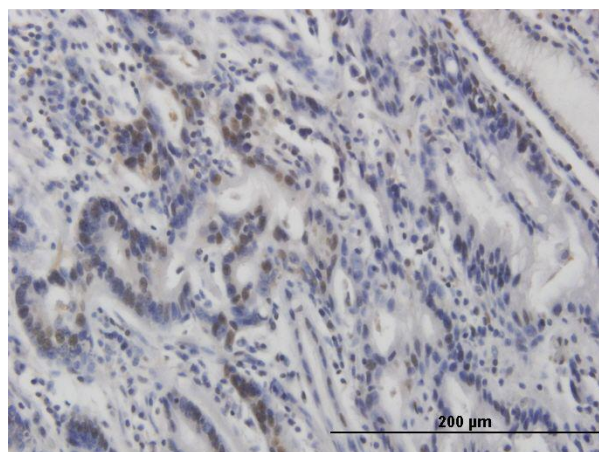


図2 胃癌組織の immunohistochemistry。

(ホルマリン/PFA 固定下のパラフィン包埋切片)

関連商品：

- #71-113 anti-p53 (p-S20)
- #71-115 anti-p53 (p-S46)
- #71-131 anti-p53 (Ac-K120)
- #71-133 anti-p53 (Ac-K382)